

卒業生答辞

冷たい風がひとしずく減り、心地よい風が吹き抜ける旅立ちの春へと移り変わる今日、私たち189名のためにこのような素晴らしい卒業式を挙げていただき、心より感謝いたします。

あらためて、香芝北中学校で過ごした日々を思い返すと様々なことが頭に思い浮かびます。

3年前の入学式、私たちは少し大きな制服に身を包み、たくさんの期待と不安を胸に校門をくぐりました。新しいクラスメイト、小学校の時にはなかった教科や定期テスト、先生との新たな出会いにドキドキしていました。対面式での先輩の姿に憧れ、立派な北中生になるための第1学年は、私達同士の衝突も多かったように感じます。先生方に注意を受けることも多くありました。旭ヶ丘小学校と志都美小学校の生徒がともに学校生活を送って行くことに対し、楽しみであったと同時に心配であった人もいましたね。コロナ禍の真っ只中で、マスク着用が義務付けられ、お互いの顔もよくわからない状態で一緒に過ごしていました。部活動の大会やコンクール、学校生活や行事が制限され、1学期の校外学習は延期、校内音楽会は行うことができませんでした。それでも、2学期に体育大会や校外学習を行うことができました。校外学習では奈良まちの文化にふれながら、「バリアフリーを探す」という課題をグループ活動で行いました。行事を通して友人の普段と違う新たな一面を知ったり、優しさにふれたりして、絆や向上心が深まり、3学期には「最初のクラスがこのメンバーで過ごせて良かった」と思えるようになりました。

2年生になって先輩となり、後輩ができました。憧れていた先輩たちと同じ立場となりました。部活動や学校生活でもしっかり見本となり、頼られる存在になれるよう行動することを心がけました。

校外学習では、兵庫県にあるJICA、人と防災未来センター、美術館に行きました。JICAでは、海外青年協力隊員のお話を聴きました。海外では、紛争などによって貧困や病気で困っている人がたくさんいます。今私たちがここ日本で当たり前のように学校へ通えること、心配もなく暮らしていけることへのありがたさを感じるだけでなく、わたしたちに何ができるかを考えるきっかけになりました。防災センターで

は、地震の体験、津波が発生した際の被害、地震から身を守るために必要なことなどを学びました。そして改めて訓練の大切さを感じました。今年の元日に、能登半島地震が発生して、多くの被害を受けました。同じ年代の中学生が、親元を離れ集団で避難するというニュースには、他人事とは思えない気持ちになりました。

2学期には中学校生活で初めての音楽会がありました。始めは小さな歌声で歌うことしかできず、なかなかクラスがまとまることができませんでした。音楽の授業や放課後の練習に取り組んでいくことで、本番では大きな歌声を響かすことができたと思います。

他にも、水平社博物館や周辺をフィールドワークした現地学習会、たくさんの職種の方のお話や実技を学んだ職業講和、学年での百人一首大会、修学旅行に向けての事前学習として平和について考えたり、旅行行程を劇にして動画を作成するなど、コロナ禍でも少しずついろいろな活動や学びができてきました。

3年生になって、学校の最高学年になりました。この1年は、コロナによる制限も解除され、コロナ前の生活がもどってきました。コロナ禍で行うことができなかった初めてすることにも「最後の」という言葉がついてくる不思議な感じでした。

3年生の思い出はやはり修学旅行です。中国、四国地方に行きました。1日目の広島では平和資料館の見学、戦争に関する碑や原爆ドームについてボランティアガイドさんの話を聞き、戦争の悲惨さや命の大切さについて、本や教科書で見るだけではわからないことを実際に現地で自分の目で見て話を聞いて学ぶことができました。

また大久野島ではうさぎや海ホテルなどの自然と触れ合ったり、ホテルでは友達と部屋で楽しく過ごしたりもしました。

2日目にはカッターボート体験をしました。始めはみんなの息がうまく合わず、なかなか前に進むことができませんでした。段々とみんなの動きが合ってきて、クラス対抗のレースではどのクラスも団結して接戦のレース展開となりました。その団結力はその後の行事にも活かす事ができたように思います。ホテルレオマの森では浴衣や温泉やバイキングなどもあり、1日目とは違った雰囲気を楽しんだり、友人との仲を深めることができました。

最終日の3日目は、中野うどん学校でうどん作り体験をしました。音楽に合わせてうどんをこねることなど学校ではできない貴重な体験になりました。

新しいクラスで慣れない中、修学旅行を通してなかまと協力して物事をやり遂げる楽しさを知ることができました。

1学期には助産師さんの講演をうける機会もありました。助産師さんからわたしたちのおかあさんが色々な苦勞があって産んでくれたこと、わたしたちがどのようにして命を受け継いでいくかなど、命の大切さについて学びました。

そして夏、3年間の部活動の集大成となる県大会、コンクールに臨みました。結果に関わらず、どの部活動も自分たちの精一杯の力を発揮できたと思います。

2学期となり、中学校最後の体育大会は、初めて短縮された形ではなく、たくさんのプログラムをすることができました。ダンス「ダイナミック北中」の前に、学年のみんなで円陣を組んだときは最高の気分で絆の深まりを一番感じたときでした。踊ることの楽しさや、振り付けを覚える難しさ、すべてを通して達成感を得られました。観覧席での声を出した応援は私たちの学年が発案して実行できたものでした。3年生だけでなく下級生からも始まり、全学年学級対抗リレー「北中オールスターズ」では学年を超えて声を出して応援し、北中生が一丸となりました。まさに「一笑懸命～最高の笑顔をもう一度」のテーマを実現したときだったと思います。

また、音楽会はやっと全学年揃ってそれぞれの合唱を聴くことができました。音楽の授業で練習したり、テスト期間が近い中、放課後に残って練習したりして、日々の努力を本番に発揮することができました。金賞を目指して臨むかたちではありましたが、どのクラスも最後は全員で、笑顔で終わることができました。

秋となって、テストが多くなり、自分の進路を本格的に考えなくてはならない時期になりました。今まで、自分とこんな向き合うことはなかったと思います。進路について考える時間が多くなり、勉強する時間も増えていき、季節は冬へと変わっていきました。受験は個人戦、受験勉強は団体戦と休む暇も惜しんで勉強に励み、なかまの支えや協力をうけて、志望校合格に向けて自分自身を追い込んでいきました。毎日必死になって取り組んでいくうちに、あと何日と数えられる日数になってきてしまいました。

嬉しいことも辛いこともたくさんあった3年間、私たちにとって、それはあつという間でした。

在校生のみなさん、部活動では上下関係もあったけれど、いつも明るく元気な笑顔で、あいさつしてくれました。生徒会ではいろいろな意見を出し合ったり、ボランティア活動、体育大会など一緒にたくさんのことを経験しましたね。先輩として進むべき道を示すことができていたかは、少し不安なところもありますが、後輩のみなさんの存在が私たちを先輩へと成長させてくれました。

私たちが1年生の時から始まった校則改定の途中の段階で中学校を離れることに

なりました。みなさんには、課題を残す形になってしまいましたが、みなさんなら香芝北中学校をより良くできると信じています。

一緒に卒業するみんなへ、今日のこの日を迎えられたことをうれしく思います。ぶつかり合うこともあったけど、行事では団結して組むことができました。今では信頼できる最高のなかまです。また、普段の生活では、勉強を教えあったり、笑いあったり、時には競いあったりしましたね。たくさん迷惑をかけたこともあったけど、いろいろなことを乗り越えることができました。まだまだみんなと学校生活を送りたかったけど、今日で卒業です。みんなと出会えてよかったです。3年間ありがとう。

先生方には3年間とてもお世話になりました。授業では私たちが楽しく学べるように工夫してくださったり、行事では、先生方も盛り上げてくださって、本気になって練習に参加してくださいました。部活動では悩むこともあった私たちにアドバイスをしてくださいました。一人一人個性の強い私たちでしたが、立派な大人になれるよう、時には厳しく、時には優しく親身になって向き合ってくださいました。進路についても真剣に考えてくださいました。ありがとうございました。

最後になりましたが、お父さん、お母さん、部活動のお弁当、習い事の送り迎えなど、たくさん力を借りてきました。おいしいご飯を出してくれたり、勉強できる環境をつくってくれました。また、入試当日もわたしたちより早く起きて、準備を手伝って応援してくれたり、受験のプレッシャーに負けそうとき一番近くで支えてくれました。そのおかげで、今、無事に卒業式に出席できていると思います。

時には素直になれないときもあった私たちですが、本当はいつも感謝していました。改めて言います。お父さん、お母さんいつもありがとう。

私たちはこれから、別々の道を歩んでいきますが、最高のなかまと過ごした中学校生活はこの先一生忘れません。これからは中学校での経験を活かして新しい環境でも成長していきます。

私たちの中学校生活を支えてくださったすべての方々に改めて御礼申し上げるとともに、香芝北中学校の更なる発展を祈念して答辞といたします。

令和6年3月13日

答辞作成委員 卒業生代表